



# 北山田小だより



横浜市立北山田小学校  
校長 滝川 尚美

## 残暑お見舞い申し上げます

副校長 宮本 仁司



曇りや雨ばかりだった7月が終わり、8月1日に関東甲信と東海が梅雨明けしたと発表されたとたん、猛烈な暑さとなりましたが、いかにお過ごしだったでしょうか。例年の半分程度の短い夏休みでしたが、期間中に大きな事故やけが、コロナウイルス感染等の連絡もなく、(発熱症状のあった子は何名かいたようですが)子どもたちが登校してきたことに安堵しています。

とはいえ、連日、多数のコロナウイルス感染者が報告されています。また、横浜では8日以降、10日連続の真夏日(17日現在)が続いており、熱中症への注意も必要な状態です。

新型コロナウイルスの感染を防ぐための、「身体的距離の確保」、「マスクの着用」、「3密(密集、密接、密閉)を避ける」といった「新たな生活様式」中で、熱中症を予防するためには、●暑さを避ける ●適宜マスクをはずす ●こまめに水分を補給する ●暑さに備えた体づくりをする ●日ごろから健康管理をする、ことに気をつけましようと言われています。(学校HPにも保健室より「気を付けよう熱中症」が掲載されています。)これからも暑さが続きますので、上記のことに気を付けながら学校生活を送って欲しいと思います。

さて、コロナ禍のこの夏休みを私は、暑さに備えた体づくりをする(普段なかなか外に出る機会が少ないので)とともにいつもより本を多く読む(読書家というわけではないのですが)チャンスにしようと思いました。そんなとき、「わたなべぽん」さんの『やめてみた』シリーズが話題になっていることを知りました。その本は、なんとなく「やらなきゃ」と思って続けていたことを、いったん「やめてみた」り、苦手なことや心地よいと思えないことを、やめて見直してみたりするといった日常のちょっとした習慣や思考のクセを「やめてみたら、どうなったのか」というプロセスが描かれているコミックエッセイです。

例えば、炊飯器が壊れたことをきっかけに土鍋を使ってみたらご飯がおいしかった。突然の雨でビニール傘を出先で購入し、家に帰ると家にもたくさんあることに気付き、天気予報を見て長傘を持つようにするが今度は持って行った傘を忘れがちだったので折り畳み傘にした。というエピソードが書かれています。作者は、炊飯器やビニール傘が良くないというわけではなく、みんな使っているから自分も使って当たり前だと思うことをやめたり改めてじっくり考えなおしたりすることでより自分が暮らしやすくなること、やめてみることで新しい生活が見えること、いろいろ良いことが生まれてその生活が自分に合っていたということ、だと言っています。また、「やめてみた」= 新しい何かを「やってみる」こととも言っています。

現在、学校では、臨時休業から段階的な学校再開(課題受渡日→分散登校→35分授業5時間→8月からは40分授業6時間)をしていく中で、再開したからこそ出てくる課題がいくつもあり、その中には変えざるを得ないものややめざるを得ないものもありますが、新たな経験、新たな生活、新たな取り組みが北山田の子どもにとって良いものになるよう職員一同努力していきたいと思っています。保護者の皆様にはご理解ご協力いただくことも多々あると思いますが、今後ともよろしくお願いします。